

平成17年度香小研国語部会研究テーマ

香川県小学校教育研究会国語部会

1 平成17年度の研究テーマについて

国語力の見極めとその指導・評価の在り方を求めて 言語活動設定と個に応じた学習指導の在り方

香小研国語部会では、平成14年度から昨年度までの3年間「生きて働く言語の力を育む国語科学習」をテーマに研究を進めてきた。

平成14年度は、サブテーマを「基礎・基本の力とその指導の在り方を求めて」とした。学習指導要領が改訂され、その全面実施の年として、3つの領域における基礎・基本の力を具体的、系統的に設定し、言語活動研究を中核とした単元設定及び1時間の支援や評価の在り方についての研究を行った。研究内容としては、「目標レベル」「単元レベル」「指導レベル」を設定し、目標の系統性を踏まえた具体化、言語活動配列と展開上の工夫、学習指導過程の工夫及び具体的な支援・評価場面の位置付け等について、夏季研修会を中心に研究を進めた。

平成15年度は、サブテーマを「言語の力の見極めとその指導の在り方を求めて」とした。これは、子どもに身に付けさせるべき言語の力を、教師が的確に設定して指導にあたる重要性を訴えるとともに、「基礎・基本を徹底する学び・学習指導要領の示す内容を超えた学び」にも対応することを意図したからである。研究内容としては、「目標レベル」「単元レベル」「指導レベル」を踏襲し、それぞれのレベルにおいて以下の視点を加えた。

「目標レベル」

「生きて働く言語の力」としての具体的・系統的なとらえ直し

3つの領域間の目標の関連性に着目する

基礎・基本の力、発展的な力の見極め

「単元レベル」

言語活動における子どもの実態と育成する言語の力の分析

学年の系統性を重視した言語活動配列の視点研究

領域の関連、言語の力の育成のための言語活動展開の研究

「指導レベル」

子どもの課題意識からの指導内容・学習活動の設定

言語の力が明確になり、その有効性が確認され、整理される支援の在り方

個に応じた言語の力を育成する評価の在り方

また、第21回四国国語教育研究大会が、小豆郡内海町立星城小学校を会場校として開催された。内海町立星城小学校は、常時活動、研究授業を通して、小豆郡は、研究発表を通して、「思いや考えを豊かに伝え合う力の育成」について提案し、参会者からの高い評価を得ることができた。また、各郡市を代表して6名の先生方が、それぞれの理論を具体的に提案し、参加者のニーズに十分応えることができた。

平成16年度は、サブテーマを「言語の力の見極めとその指導・評価の在り方を求めて」とした。これまでの研究内容を引き継ぎ、目標レベル・単元レベルを設定した。単元レベルにおいては、個に応じた指導の充実を図るという目的で県下にもかなり取り入れられている「少人数指導」の視点を盛り込んだ。また、これまでの学習指導レベルを、「学習指導・評価レベル」とし、目標に準拠した評価内容や評価方法の明確化の意義を反映した。さらに、これからの国語科学習を考えるにおいて、「朝の活動」等の在り方、トピック単元の開発等の必要性も浮かび上がってきた。そこで、「常時活動・トピック単元の開発」という内容を加えた。

夏季研修会では、2本の実践が提案され、単元編成の工夫や少人数指導、香川型教材の活用等について論議が深められた。また、朝学習「漢字の学習」も実演を交えて提案され、常時活動の在り方に対する具体的なイメージをもつことができた。さらに、国語力向上モデル事業推進校4校によるパネル討議も行われ、これからの国語力の育成、特に少人数指導の在り方についての成果や課題が明らかになった。

以上のように、香小研国語部会では、社会の情勢やこれまで3年間の研究の成果と課題について繰り返して話し合ってきた。そして、本年度の研究について以下の視点が浮かび上がってきたのである。

「言語の力」に焦点を当てた研究は、現在、そしてこれからの大切な課題である。

文化審議会答申においても「これからの時代に求められる国語力」が示された。そこでは、「考える力」(分析力・論理構築力等を含む論理的思考力)、「感じる力」(相手の気持ちや文学作品の内容、表現、自然や人間に関する事実等を感じ取ったり感動したりできる情緒力)、「想像する力」(経験していない事柄や現実には存在していない事柄等をこうではないかと推し量り、頭の中でそのイメージを自由に思い描く力、また言外の思いを察する力)、「表す力」(考え、感じ、想像したことを表すために必要な表現力、論理的に組み立てた考えや思いを具体的な発言や文章として、相手や場面に配慮しつつ展開していける能力)と、定義されている。また、「望ましい国語力の具体的な目標」も示された。そこで、「言語の力」を「国語力」と改め、「国語力」を育成するということを前面に掲げたテーマを設定したい。

「目標レベル」「単元レベル」「指導・評価レベル」の研究の切り口を踏襲する。

「目標レベル」「単元レベル」「指導・評価レベル」といった研究の切り口は、そこにどんな領域や視点をのせても、共通のポイントが存在する。各郡市の研究がしやすく、研究の接点も見出しやすい。つまり、各郡市の独自性を生かしながら、研究の接点を求めていくためには、このような、いわば横軸の研究内容設定が有効ではないかと考える。

読書やドリル，論理的思考力を鍛える取り組みも，これからは互いに紹介し合い，より効果的な単元や活動を工夫していく必要がある。その意味で「トピック単元・常時活動の設定」は有効である。

平成16年度の夏季研修会においては，坂出支部による「朝学習」の提案があった。アンケートにおいても，今後もこのような活動の提案を続けてほしいという意見が大半であった。「読書」「言語事項」「論理的思考力」「想像力」「言語感覚」等，幅広い領域における提案も今後は取り入れていきたいと考える。

目標レベルの研究は，常に単元レベル，指導レベルとリンクさせながら進めていく。

「目標の系統性を踏まえた具体化」は，その学年，単元で培うべき国語力を明確にするためにも，また，目標に準拠した評価のことを考えても大切である。そして，年間指導計画の作成も必要である。しかし，「目標レベル」だけが一人歩きしないためにも，単元における言語活動や具体的教材，学習指導における支援や評価内容・評価方法の研究を通して，再び目標の妥当性を吟味することも重要である。

新教科書対応の研究内容も重視する。

国語科の学習は，教科書に掲載されている教材文や，そこに示されている学び方（言語活動）に大きく左右される。新教材については，ことさらに教材研究が必要となろう。その際に，言語活動研究は，育成したい力と，子ども自らが学んでいくといった面の接点や，学習の効率化や重点化といった側面からも重要なポイントになる。また，言語活動研究に当たっては，当然ながら培うべく国語力を具体的にまた，系統性を考慮した研究が必至となり，「目標レベル」との関連を図ることになる。

教師の指導力向上の視点を盛り込む。

「指導・評価」レベルにおいては，これからの教育に関する重要な課題がある。それは，教師の学習指導力向上に関する研究である。1時間の指導内容を明確に持ち，評価し，その有効性を確認し整理する働きかけをすること，また，活動の設定や教材教具の開発を行うこと，さらには，子どもの反応に潜在する価値を顕在化させたり，子ども相互の関わり合いを組織したりといった教師の働きかけは，子どもの国語力育成に大変大きな役割を果たすと考える。

2 研究内容

研究テーマ

国語力の見極めとその指導・評価の在り方を求めて

言語活動設定と個に応じた学習指導の在り方

目標レベル

具体的・系統的な国語力の設定

「生きて働く国語力」としての具体的・系統的なとらえ直し

学習指導要領に示されている指導事項をより具体的にとらえる。そして、低学年・中学年・高学年の系統性を考慮した目標を設定する。

「発達段階に応じた国語力」としての具体的・系統的なとらえ直し

幼稚園と小学校との接続，小学校と中学校との接続も視野に入れた国語力の吟味を行う。

3つの領域間の目標の関連性に着目する

領域間にまたがる関連指導可能な具体的・系統的な目標を設定する。

基礎・基本の力，学習指導要領を超える国語力の見極め

どの子にも保障しなければならない基礎・基本の国語力，及びその広がり高まりからとらえられるより高い国語力を具体的・系統的に設定する。

単元レベル

目標レベルを受けた言語活動研究・言語活動配列研究・言語活動展開研究

言語活動における子どもの実態と育成する国語力の分析

ある言語活動を展開することで，子どもたちは教材をどう受けとめ，どのような国語力を，どのように身に付けていくのかを明らかにする。

学年の系統性を重視した言語活動配列の視点研究

同一，または同系列の言語活動の発展性と培いたい国語力との関係は何かを明らかにする。

領域間の関連，国語力の育成のための言語活動展開の研究

領域間の関連を図る単元展開とはどうあればよいのか，1単元の言語活動の展開において，ある国語力を習熟していくまでの単元展開とはいかにあるべきかを明らかにする。また，「読むこと」「書くこと」の定着に指導の重点を置いた言語活動の設定も重視していく。

個の力を最大限に高める「少人数指導」の研究

習熟の程度に応じた少人数指導・子どもの興味・関心に応じた少人数指導はどうあるべきかを，実践を基にその方法や効果を検討していく。

学習指導・ 評価レベル

目標レベル・単元レベルを受けたきめ細かな支援・評価の在り方

子どもの課題意識からの指導内容・学習活動の設定

コミュニケーション不成立の場面を取りあげて，その解決のためには，どうすればよいのかを考えていく等，子どもの課題意識・目的意識を大切にした活動を設定する。

国語力が明確になり，その有効性が確認され，整理される支援の在り方

ある国語力の実効性を実感できる活動を組み，活用・転移する場を設定する等，教師が培いたい力と子どもが身に付けていこうとする力が一致し，子どもたちがその国語力を確実に身に付けることができるようにする。

子どもの反応を組織する等，教師の指導の在り方

子どもの反応に潜在する価値を顕在化させたり，子ども相互の関わり合い，

吟味力を高めたりする等，教師の具体的な指導力の向上を図る。

個に応じた国語力を育成する評価の在り方

単元の評価規準及び，学習状況の判断の基準，そのための方法を明確にした評価計画を作成し，一人一人を確実に評価し，支援へと生かしていく。

常時活動・トピック単元の開発

朝活動の在り方，授業におけるトピック単元の開発を行い実践を交流する。
(論理的思考力・想像力・言語感覚・読書・漢字・メディアの活用等)

3 研究方法

各郡市がそれぞれの視点をもって研究し，以下においてその成果と課題を交流し，さらに研究を深めていく。

平成17年度の夏季研修会

日時 平成17年7月28日(木) 9:00～16:00

場所 香川県民ホール(多目的大会議室・大会議室)

内容

開会行事

香小研研究テーマについて

各郡市の代表による実践発表並びに研究協議(3ブロックの代表)

小豆・東ブロック1本，高松ブロック1本，西ブロック1本

国分寺北部小学校(中ブロックとして)の取り組み提案

講演

閉会行事

研究冊子「国語科教育41号」

平成18年2月上旬発行予定

平成17年度第22回四国国語教育研究大会(高知大会)

平成17年11月25日(金)

高知県 高知市立一宮(いっく)小学校・・・小学校，中学校合同開催

大会主題 「基礎・基本にたちかえる国語教育の創造」

第1学年の提案・・・・・・・・中ブロック

第4学年の提案・・・・・・・・小豆・東ブロック

平成17年度香小研研究委託

「確かな学力の定着・向上のための学習指導の工夫・改善」